

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年2月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
食料品	パン・菓子製造業	今年に入り、組合の脱退申し出が相次ぎ、業界の先行きの指針を今一度再考しなければならないのではないかと感じている。	
	調味材料製造業	先月の醤油出荷量は、前年同月比に比べ大幅に減少した。今年は下げ幅が大きく、先行きが懸念されている。	
	パン・菓子製造業	暖冬の影響により観光客が多く、前年に比べてやや好調である。	
繊維・同製品	その他の織物業	年度末近くになり、悪い話が絶えなく聞こえるようになった。2月にアパレル企業等の大型倒産が相次ぎ、中には老舗企業も含まれており、今後の業界にどう影響するのか注視しなければならない。定番品を例年通り生産している企業、目まぐるしくスポット生産を行う企業、そして新たなモノ作りに挑む企業。各自の努力と産地として考える今後、時間は無いが知恵と工夫と創造性を持った活動を出来るだけ多くの方々と展開していきたいと考えている。	
	織物業	量や価格については強含みの状態である。	
	織物業	相変わらず厳しい状況が続いているが、シルク綿等の複合高品質ブランド用途織物でかろうじて小ロットの受注を確保している。	
	ねん系製造業	全体的に稼働率は上がっているが、採算ベースには程遠い感じである。	
	その他の織物業	期末に向かい、大手集産地問屋の在庫調整が強まり、発注が止まっている。	
	その他の織物業	2月度は、前年同月に比べ5%の売上減となった。収益の悪化が収まらない状態である。組合員のみならず、組合経営にとっても依然として厳しい状況が続いている。	
木材・木製品	製材業、木製品製造業	前年同月に比べ、全体的に上向き傾向にある。	
	製材業、木製品製造業	2月の売上は予想以上に落ち込んだ。昨年から続いている資材価格の値段は2月は停滞した。ただ、メーカーサイドでは依然として強気であり、再度の値上げを吹聴している。加えて、ロシア材の関税率の上昇が噂されており、どのように影響するのか注視しなければならない。	
製 造 業	窯業・土石製品	砕石製造業	2月の組合取扱い出荷量は、対前年同月に比べて、合材用アスファルト向け出荷が23.0%減と大幅に減少し、生コン向け出荷では、南加賀地区で4.4%増となったものの、金沢地区で17.6%減少となり、生コン全体で4.8%の減少、全体出荷量でも7.8%減少となった。平成18年度の出荷量は対前年並みの出荷量が予想される。
		陶磁器・同関連製品製造業	依然として低迷が続いており、組合員の減少に繋がっている傾向にある。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリート出荷状況は、前年同月比87.7%と大幅なマイナスの出荷となった。地区状況は、南加賀、鶴来・白峰地区がプラスとなったものの、金沢、羽咋・鹿島、七尾、能登地区ではマイナスで推移した。官公需、民需では先月に反して今月は官公需(93.6%)、民需(82.3%)と共にマイナスとなった。これは、今冬季の好天による前倒施工が完了した事によるものと思われる事から、新規事業が発注されるまでの間、大幅な出荷減の状況が続くのではないかと心配である。	
	粘土かわら製造業	2月中は雪も積もらず、天候も良好であったが、売上は前年とほぼ変わらなかった。今後は雪の影響による修理作業やそれに伴う葺替工事が少なくなるのではとの声が聞かれる。	

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年2月分)

鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	依然として活況である。当団地に隣接する地に新団地が出来る事になったが、新団地に予約をしたいと言っている企業が続出している状態である。
	非鉄金属・同合金圧延業	特に変化は認められない。
	鉄素形材製造業	景況は好調を維持し、生産量も前年に比べ10%を上回っているものの実感はない。特に鋳物用原材料の高騰は、企業経営を圧迫している。この事を踏まえ、日本鋳造協会は業界を挙げて高騰する材料価格を吸収すべく運動を展開しているところである。
	鉄素形材製造業	前年同月に比べて売上は減少しているものの、収益面ではほぼ横ばいの状態である。
一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	自動車関連は、設備投資の調整期に入っており、新型車の発売も無く、精密金型関係の需要は減少している。その影響からか、精密金型関係の業者は自動車関連以外に進出しており、仕事の奪い合いが続いている。その他として平成19年度の新規採用が計画を下回った企業が多くなっている。特に工業系の採用が苦戦をしている。
	機械金属、機械器具の製造	先月と同様に特に変化は認められない。
	繊維機械製造業	鉄工・機械関係の生産は好調が続いている。
	プレス、工作機械	現在の受注の中には3、4月納期の受注がかなりあり、来期もかなり高い水準で生産が推移するものと思われる。ただし、鋼材の中でも特にステンレスの価格がいまだに高騰し続けており、今後は価格に転嫁出来なければ収益を圧迫する要因になると予想される。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	企業、業種間で格差が見られますが、総体的に見て受注が増加傾向にあるように見受けられる。
	機械金属、機械器具の製造	特に変化は見られない。設備関連産業機械の生産は、高水準で安定しており落ち着いた操業を続けている。
その他の製造業	漆器製造業	百貨店・専門店市場の落ち込みをカバーしていた量販店での動きが鈍化しており、木製、近代漆器双方とも出荷額は減少傾向にある。各社とも得意市場に経営資源を集中する事により生き残りを図っているが、市場縮小の中での現状は厳しい。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	相変わらず倒産件数が増加傾向にある。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高は前年とほぼ変わらない状況で推移している。これから良い方向に向かう事を期待している。
	一般機械器具卸売業	好天が続いている事から、2月は例年に無く好調であった。しかしながら、昨年暮れに発生した倒産企業の件もあり、不安感が残っている。官公庁の年度末仕事もほとんど聞かれず、不安要素ばかりである。頼みの住宅着工も見込まれず、やはり今年の前半は難しい時期になりそうである。
小売業	燃料小売業	暖冬が継続しており、灯油の売上が極度の不振に陥っている。ガソリンも需要が減少しており厳しい状況が続いている。さらに安値店(無印店とセルフ等の量販店)と一般価格店(元売系列フルサービス)との価格差が拡大し、無益な価格競争が起きている。
	機械器具小売業	2月は、ルームエアコン・冷蔵庫の動きが悪く、前年比80%~90%と落ち込むものの、液晶・PDPテレビが145%と好調に推移し、全体では102%の伸びを確保した。しかし、電器量販店での安値競争が激化してきており、単価の下落に伴う粗利が減少しており、収益状況は良くない。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	先月に引き続き、かつてない暖冬の影響で冬物衣料が不振であったが、その中でも婦人服関係は好調であった(前年比98.5%)。冬物防寒衣料のバーゲンを行ったものの、店舗間競争もあり、在庫品の処分には苦慮した。
	鮮魚小売業	2月上旬。中旬は全体的に入荷量も少なく、高値で推移した。下旬に入っても入荷量は少なく、2月は閑散としていた。
	他に分類されない その他の小売業	昨年は大雪の影響で観光客が激減したが、2月は前年比142%と大幅に前年を上回っている。
	百貨店・総合スーパー	2月の売上は予算比84.8%、前年比99.0%と昨年並みの数値になっているが、中身を見ると近年まれな暖冬の関係で季節商品を扱っている衣料関係はほとんど昨年割れを起こしている。逆にそれ以外の飲食や食品関係はまずまずであった。
	米穀類小売業	3ヶ月連続で前年割れを起こしている。お米の消費額の減少に歯止めがかからない状況である。購入先別に見るとスーパーや量販店が70%を占めており、一般販売店はわずか15%となっている。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年2月分)

非 製 造 業	商店街	近江町市場	売上高については微増の状況である。昨年に比べて雪の影響が無かったため、客足が増えたのではないかと思う。
		尾張町商店街	1月に続いて積雪の無いまま2月も過ぎた。冬物も全く期待出来ないままの低空飛行の商業環境の月であった。地球環境の問題以前に商業環境の低空化に対して深刻に検討しないと、継続が厳しい状況になりかねない。
	サービス業	旅館、ホテル	昨年と違い、好天が続いており、その影響か昨年に比べ、若干観光客が増えている状況である。
		旅館、ホテル	観光シーズンであるため、宿泊客数や売上等は高水準で推移している。
		自動車整備業	継続検査実績車輛数は、前年同月比2.6%減、前月比45.8%増となった。新規検査状況は、前年同月比1.0%増、前月比75.6%増となった。
		旅館、ホテル	暖冬による冬の情緒が無いものの、宿泊人員は伸びている。だが、相変わらず個人消費額は低落傾向にあり、全体の売上も減少している。景気の回復が感じられない状況下において、消費者の消費志向の多様化等の対応に苦しんでいる。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は、前年同月比3.9%増となった。内訳は、民間土木で79.4増、民間建築で21.1%増となり、民間としては35.6%の増となった。公共土木は、16.0%の減となり、公共建築は48.0%減となり、公共としては18.8%の減となった。公共は依然として低迷状況にあり、逆に民間は若干良くなっている。
		一般土木建築工事業	建設業界が直面している経営上の問題点は、資材等の仕入単価の上昇、需要の停滞、大企業の進出による競争の激化があげられる。公共事業の縮減が数年続いている、この状況がいつまで継続されるのか不透明感が業界にとって不安を増大させている。地方における景気回復の実感乏しく、公共事業関連の体力は限界に達しているように思われる。
		板金・金物工事業	2月も天候に恵まれたが、仕事はかどりと、職人をもて遊ばす所も出て来ている。相変わらず受注競争の激化は続き、受注単価の下落が続いている。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	今年は雪の影響も無く荷動きは順調に推移している。軽油価格は3月に2円程度の値上げの要請があった。
		一般乗用旅客自動車運送業	自家用車や運転免許人口の飛躍的な増加という背景の中、改正道路運送法が施行されて6年目に入った。この間、新規参入や増車で市街地におけるタクシーの供給過剰が深刻化する一方、コミュニティバス等の新たな輸送形態まで加わっては、20数年来続いている運送収入の減少傾向に歯止めがかかるわけもなく、今日のタクシー業界はどうにも抜き差しならない状態が続いている。このような厳しい競争時代を生き抜くには、今まで以上に事業者が一致結束して公共交通機関としての質感ある業界像づくりに取り組むとともに、それぞれが工夫を凝らしたキメ細かなサービスを提供していかなければならない。
		一般貨物自動車運送業	今年は雪の影響が無かった事により、昨年に比べ回転が良く、売上高は少しアップした。しかし、地域間格差が生じている。軽油の価格は1~2円下がった様子であるが、取引条件は依然として改善されないままである。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等